

2019.03.11：平成31年条例予算特別委員会 本文

○川上（陽）委員 自由民主党福岡市議団を代表して、2学期制及び午前中5時間授業の取り組みについて質問する。現在、多くの学校で2学期制や午前中5時間授業を導入しているというのを聞いている。その一番の目的は、教員の負担軽減のためだと考えている。そして、それも大切なことだと認識している。その上で、この取り組みが子どもたちにどのような影響を及ぼすのかという観点から質問する。まずは2学期制について、そもそも2学期制とはどのような取り組みなのか、また、その目的について尋ねる。

○川上（陽）委員 年間の授業日数や夏休みの日数など、余り3学期制と変わらないようである。以前は全ての学校が夏休みや冬休みを境に学期が変わる3学期制だったと思う。そこで、教育委員会が2学期制を選択できることにした理由を尋ねる。

○川上（陽）委員 具体的に2学期制はどのようなメリットがあるのか、また、全市で一斉に実施しなかったのはデメリットもあったからではないかと考えるが、教育委員会が捉えているデメリットもあわせて尋ねる。

○川上（陽）委員 過去3年間において、どれぐらいの小中学校が2学期制を実施しているのか、その推移を尋ねる。

○川上（陽）委員 3年間の推移では、中学校に比べて小学校で実施する学校数が増加しているようである。30年度では、小学校は前年度から7校増加して18校が実施しているが、中学校は3校のままで、小学校と中学校の実施校数には大きな開きがある。そうすると、例えば兄弟を小学校と中学校に通わせていた場合、小学校では2学期制、中学校では3学期制というように別々の制度になり、休みの日にちが異なるなど保護者の中には戸惑ったり、困ったりするという声を聞いている。そこで、教育委員会は地域や保護者の声を把握しているのか尋ねる。

○川上（陽）委員 そもそも、なぜ中学校は実施校数が伸びないのか、教育委員会の所見を尋ねる。

○川上（陽）委員 中学校は小学校と立場が異なり、導入が難しいということがわかった。先ほど、2学期制のメリットの一つに通知表の作成が減ることによって教員の負担軽減につながるのと答弁があった。しかしながら、教員の負担軽減については、平成27年から市民の税金を毎年約1億5,000万円かけて校務支援システムを導入している。それでも教育委員会は、教員の負担軽減のために今後も2学期制が必要だと考えているのか、所見を尋ねる。

○川上（陽）委員 山笠に関係する学校や地域では理解できる。その他の学校や地域が2学期制を導入する実態を尋ねる。

○川上（陽）委員 これまでの3学期制では、年に3回、保護者は通知表をもらって学習の状況を知ることができていた。2学期制では、保護者に対する年間の情報も少なくなり、不安も大きいと思われる。実際に保護者からは「学習の状況のみならず、家庭では知ることのできない学校での様子など、通知表を通して情報を得ていた。それが年に3回から2回に回数が減るということは不安」との声を聞く。また、先生方の中にも「子どもたちにとっての1年間は、私たち大人と違い、とても長く感じる中身の濃い1年である。だからこそ3学期制のままで、小まめに情報を伝え指導していくことは、子どもたちにとって大切なこと」との声もある。このようなことについて、教育委員会の見解を尋ねる。

○川上（陽）委員 義務教育とは、子どもたちのことを最優先に考える教育だと思っている。今後も、この2学期制という取り組みが本当に子どもたちのためになっているのか検証し、学校長の判断に委ねるだけではなく、教育委員会が責任を持って方針を示していくべきと考えるが、所見を尋ねる。

○川上（陽）委員 次に、午前中5時間授業について質問する。まず、午前中5時間授業とはどのような取り組みなのか、目的もあわせて尋ねる。

○川上（陽）委員 以前は全ての学校が午前中4時間授業だったと思う。そこで、午前中5時間授業を行うようになった経緯を尋ねる。

○川上（陽）委員 過去3年間において午前中5時間授業を実施している小学校の数はどのように推移しているのか、その状況を尋ねる。

○川上（陽）委員 この3年間で実施する学校数は倍以上になっており、本年度は福岡市の半数以上の小学校で午前中5時間授業を行っているということがわかった。来年度の実施予定校数を尋ねる。

○川上（陽）委員 実施校数はここ数年で一気に伸びているが、来年もさらに10校ふえるということである。他の政令指定都市の実施状況はどうなっているのか尋ねる。

○川上（陽）委員 実質、政令指定都市の中で実施しているのは2つの市だけで、それぞれ1校のみということだが、他の政令指定都市と比べてこのように福岡市がぬきんで多いのはどういう理由か尋ねる。

○川上（陽）委員 午前中5時間授業にはどのようなメリットがあるのか、デメリットまであわせて尋ねる。

○川上（陽）委員 学校から報告を受けたメリット、デメリットを踏まえ、教育委員会としての見解を尋ねる。

○川上（陽）委員 この午前中5時間授業に対しては非常に問題が多いと思っている。まず1つ目に、学習の能率性から見ても、たとえ5分といっても授業と授業の間にしっかりと休憩をとり、気分転換するということが必要である。2つ目はトイレの問題である。授業と授業の間に休憩時間がないことで、授業中にもかかわらず自由にトイレに行かせているようだが、ほかの子どもたちやほかのクラスにも迷惑をかけ、集中力の低下や規律の乱れにつながると思う。1人でトイレに行ったときに思わぬ事件に巻き込まれる可能性もあると考えられる。また、トイレに行きたくても先生に言えない子どもがいるという保護者の声を耳にする。授業が2時限続く場合90分、授業が3時限続く場合は130分以上トイレに行けない状況であるとするならば、子どもたちの体調面は大丈夫かと、とても心配になる。3つ目の問題は、授業時間が実質的に削られることである。今まで5分休みの時間を使って、次の授業の準備や、例えば体育の着がえや音楽教室などの移動に利用していた。それが今は、授業時間を使ってそれらを行っていることから、実質的に授業時間が削られることになる。純粋に授業の時間が短くなるということは問題ではないか。4つ目の問題は、午前中に5時間目の授業を入れることで、その分給食の時間が遅くなり、食べ始めが13時になることもある。おなかですく子どももいるという声を聞いている。空腹のままでは何をすることも集中力が続かないと思う。繰り返しになるが、この午前中5時間授業の一番の目的は、教員の負担軽減のためだと考えている。それも大事なことでありと認識している。しかし、そのために大切な授業時間が削られ、休憩時間も奪われた状況の中で、一番の犠牲者は子どもたちではないだろうか。このような観点から、従来どおり午前中4時間授業の体制をとっている学校の子どもたちと比べても、これは教育上の不平等ではないかと考えている。先ほどの答弁で教育委員会は、午前中5時間授業についてのメリットを2つ挙げた。それらのメリットを差し引いたとしても、これらのデメリットのほうがはるかに大きいと思っている。子どもたちのことを一番に考えるのであれば、この午前中5時間授業は直ちに見直すべきだと考えるが、教育委員会の所見を尋ねる。

○川上（陽）委員 授業と授業の間に確実に休憩時間をとるように指導するとのことだが、そうすれば給食の時間がもっと遅くなり、子どもたちはますます空腹で授業に集中できないのではないかと思うが、所見を尋ねる。

○川上（陽）委員 ただいまの答弁は矛盾していると思う。休憩時間も確実に確保して、給食の時間も遅くならないように配慮するということでは、午前中5時間授業は成立しない。教育委員会は指導すると言っているが、成立させるためにどのような指導をするのか尋ねる。

○川上（陽）委員 ただ短絡的に登校時間を早めるということは、子どもたちの負担がますます大きくなるとは思わないか。なぜそこまで午前中5時間授業にこだわるのかよくわからないが、このような的を射ない答弁が返ってくるとは非常に残念に思う。また、学校長の責任で学校や地域の実態に応じて導入を判断しているということを繰り返し言われるが、そうであれば教育委員会として学校や地域の実態をどのように把握しているのか。実施している78校について、一つ一つ尋ねる。

○川上（陽）委員 ただいまの答弁で、この午前中5時間授業を実施している78校について、教育委員会はその実態も把握していなければ、子どもたちのためになっているのか、子どもたちの負担になっていないのかさえわからないということが明らかになった。これは非常に問題である。このようなことでは、教育委員会の存在意義さえ疑いたくなる。したがって、しっかりとした検証がなされていない現時点では、来年度新たに10校ふやすということは拙速だと考える。また、他の政令指定都市もこのことについて慎重であるということを考えてときに、福岡市が検証もせず、安易に実施校をふやすということは明らかに無責任ではないだろうか。このことから、来年度の新たな実施予定校については、当然導入を見直すべきだということを強く要望する。子どもたちにとって大切な義務教育を失敗させるわけにはいかない。そして、この時間はやり直すことも取り戻すこともできないのである。繰り返しになるが、教員の負担軽減はもちろん大切であるが、それ以上に子どもたちにとって何が一番大切なのかを中心に考えて、学校長の判断に委ねるのではなく、教育委員会が責任を持ってしっかりと検証し、方針を示していくべきと考えるが、教育委員会の所見を尋ねる。

○川上（陽）委員 教育委員会が責任を持つと言った以上、しっかりとした検証がなされていない現時点では、来年度安易に実施校をふやすことは当然あり得ないと思う。また、既に実施している78校についても、しっかりとした検証をし、それに基づいた判断をするべきである。教育委員会は、議会での答弁の重さをしっかりと自覚し、良心に基づき対応することを信じての質問を終わる。